

第124期 第2四半期のご報告

平成24年3月1日から平成24年8月31日まで



東宝株式会社

証券コード：9602

変わらぬGOOD MEMORIESを
提供するために。

街とともに 進化する TOHOシネマズ



島谷 能成
代表取締役社長

瀬田 一彦
取締役
TOHOシネマズ株式会社代表取締役社長

島谷能成社長と瀬田一彦取締役(TOHOシネマズ株式会社 代表取締役社長)が東宝の興行部門を担うTOHOシネマズの今とこれからをお話します。

→ 市場環境とともに変わり続ける

Q 国内ではシネコンが飽和状態と言われ、スクリーン総数が減少^(注)するなか、業界トップのTOHOシネマズはスクリーン数を増やし続けています。

島谷: 現在TOHOシネマズは62サイト567スクリーンを展開、6月には業界に先駆けて全館デジタル化と自動券売機の全国配備も完了しました。街やお客さまの動態に沿って我々も終わりなき変化を続けます。決してスクリーン数ありきではありません。進捗中の大型再開発案件「TOHOシネマズ日本橋(仮称)」:9スクリーン、約1,800席、2014年3月竣工予定」「TOHOシネマズ新宿」:12スクリーン、約2,500席、2015年5月竣工予定」も新しい街づくりのコンセプトの中で映画館が求められたからこそ実現したものです。

瀬田: 例えば「TOHOシネマズ日本橋(仮称)」は日本橋地区都市再生プロジェクトの一環で、映画館を造ることはデベロッパーなど各機関とのネットワーク、東宝グループへの信頼から実現するものです。日本橋と新宿の両TOHOシネマズは年間の観客動員80万人を最低ラインと位置付け、これまでのノウハウを取り入れることで、ハード・ソフト両面で最高品質のシネマコンプレックスにします。

(注) 国内映画館スクリーン数: 2011年3,339(前年比△3%)、うちシネコン2,774

→ 映画館のデジタル化で広がるODS事業

Q 映画館で“映画以外の映像作品を上映する” ODS(アザー・デジタル・スタッフ)が新たな事業分野として定着しつつあります。

瀬田: 東宝は2006年のサッカー・ドイツワールドカップのパブリックビューイング以降、宝塚歌劇、AKB48やEXILEのライブ上映・中継など250件以上のODS案件を実施し、当第2四半期のTOHOシネマズのODS収入は昨年対比238%と伸長しました。現在、TOHOシネマズと凸版印刷株式会社が共同開発する「教育機関向け学習コンテンツ上映サービス」は貴重な文化財をバーチャルリアリティ (VR) 映像で体感いただくものです。2012年10月から実証実験『シネマde文化財』

としてTOHOシネマズ六本木ヒルズで「唐招提寺」や「阿修羅像」などを上映します。

島谷: 「教育機関向け学習コンテンツ上映サービス」は授業の一環で小学生が初めて映画館を訪れるなど、映画館を知るきっかけ作りにもなると期待しています。上映コンテンツの多角化とともに映画館が“映像館”として進化していくでしょう。

瀬田: TOHOシネマズも変わりつつあります。映画興行会社は映画を上映することが仕事ですが、ODS事業を通じて自らがコンテンツを企画立案し、多様な事業会社と連携する機会も増えています。TOHOシネマズ自身が多くの“才能”を集める魅力ある場となるべく、社員各人も成長に努めています。

島谷: 映画創りでは映画製作委員会方式、TV・出版・広告会社など異業種の皆さんとの協働で多くのヒット作が生まれました。ODS事業や冒頭申し上げた映画館の開発も“外部の才能”との協働が不可欠です。ODS事業ではTOHOシネマズと東宝内にも専任部署を設け、新たな才能との出会いの窓口を広げています。

→ 最先端の劇場で“人のぬくもり”があるサービスを

Q TOHOシネマズは障がい者の採用にも積極的に取り組んでいます。

瀬田: TOHOシネマズは2008年に東宝グループ興行会社5社が統合し、売上575億円、従業員数4,800人とグループ最大規模の子会社となりましたが、その時点で障がい者の法定雇用者はおりませんでした。CSR(企業の社会的責任)の観点から障がい者雇用に積極的に取り組んだ結果、2012年12月時点で法定雇用率3.5%となり、2012年6月には日本HR(ヒューマンリソース)チャレンジ大賞の奨励賞を受賞するなど各種機関から評価を頂戴しました。日常的に障がいを持つ同僚と接することで社員の意識も変化し、劇場を訪れるお客さまに一層細やかな思いやりあるサービスを心掛けるようになったと思います。

島谷: 接客の原点は人へのやさしさ、忘れてならないのはデジタル化を含む最先端のハードは道具に過ぎないことです。東宝の映画・演劇、不動産事業全てにおいて究極の目的は「お客さまが求めるもの」を丁寧に提供することです。いつの時代も“人が人をもてなす”基本に変わりはありません。

瀬田: 近年TOHOシネマズではvit、ムビチケカード、ホームページのスマートフォン対応など利便性向上に努めていますが、目的は「お客さまにストレスなくお楽しみいただくこと」です。東宝の創業者、小林一三翁の言葉に「吾々の享くる幸福は、お客さまの賜ものなり」とあります。“GOOD MEMORIES WITH YOU”の理念のもと、感動を与える接客サービスを維持・向上し続けることが、最大の差別化戦略です。

島谷: TOHOシネマズは従業員数など規模的にも最大の子会社ですが、それだけでなく映画館を通じて最も数多くのお客さまと直に接する、東宝グループのサービスの最前線であり基盤となる会社です。TOHOシネマズが最先端のハードやソフトを備えつつ、いかに手のぬくもりを感じさせるサービスを提供し続けるか、お客さま目線で“終わりなき改革”を続けてまいります。株主の皆様には引き続き、ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

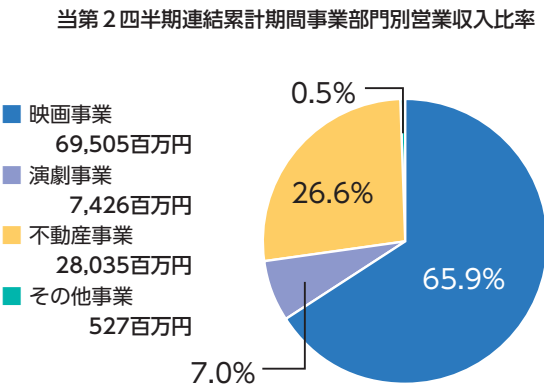


営業の概況

営業収入	105,495	百万円	（前年同四半期比 11.9%増）
営業利益	16,708	百万円	（前年同四半期比 70.9%増）
経常利益	17,785	百万円	（前年同四半期比 73.1%増）
四半期純利益	9,852	百万円	（前年同四半期比 162.5%増）

当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、主力の映画事業のうち映画営業事業において、興行収入70億円超の「BRAVE HEARTS 海猿」を筆頭に「テルマエ・ロマエ」「おおかみこどもの雨と雪」などの各作品が順調に稼働を伸ばした結果、映画興行事業へも好影響をもたらしました。また演劇事業においても、帝国劇場の「エリザベート」などが好稼働した結果、増収増益となりました。

各事業部門別の状況



■ 映画事業（映画営業事業、映画興行事業、映像事業）

映画営業事業のうち製作部門では、表1の①記載の劇場用映画を共同製作したほか、当社の映画企画部門において、劇場用映画「あなたへ」「悪の教典」「だいたいじょうぶ3組」及びWOWOWで放送の連続ドラマW「罪と罰 A Falsified Romance」を制作しました。配給部門では、当社において表1の①及び②に記載の18番組19本を提供し、東宝東和㈱において「メン・イン・ブラック3」「スノーホワイト」等4本を配給いたしました。その結果映画営業事業収入は259億2千万円（前年同四半期比50.9%増）となりました。

表1. 当第2四半期連結累計期間中の提供映画作品

① 共同製作・配給作品	
● ライアーゲーム - 再生 -	● 僕等がいた 前篇
● 劇場版SPEC ～天～	● 名探偵コナン 11人目のストライカー
● 僕等がいた 後篇	● テルマエ・ロマエ
● 宇宙兄弟	● ガール
● 映画ホタルノヒカリ	● BRAVE HEARTS 海猿
● おおかみこどもの雨と雪	● エイトレンジャー
● アナザー Another	● あなたへ
② ①以外の当社配給作品	
● 映画ドラえもん のび太と奇跡の島 ～アニマルアドベンチャー～	
● 映画クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ！オラと宇宙のプリンセス	
● 劇場版ポケットモンスター ベストウイッシュ キュレムVS聖剣士ケルディオ／メロエッタのキラキラリサイタル	
● ROAD TO NINJA -NARUTO THE MOVIE-	

映画興行事業では、TOHOシネマズ㈱を中心にグループ各興行会社において前記各作品の他に、「アベンジャーズ」「アメイジング・スパイダーマン」「ダークナイト・ライジング」「ヘルター・スケルター」等、邦洋画の話題作を上映いたしました結果、映画興行事業収入は319億4千9百万円（前年同四半期比7.1%増）となりました。また、当社グループの当第2四半期連結累計期間中の劇場異動は表2のとおりとなり、東宝系興行網の再構築を進展させました。新規オープンした劇場は順調に稼働、当社グループのスクリーン数は7スクリーン減の合計604スクリーン（共同経営56を含む）となりました。また、映写室無人化・新規自動券売機設置を完了し、運営の効率化を促進。お客様へのサービス強化といたしましては、スマートフォン決済対応及びカード型前売券“ムビチケ”の取り扱いを開始することで、利便性向上に努めました。

表2. 当第2四半期連結累計期間中の劇場異動

月日	劇場名	スクリーン数	場所	経営主体	異動内容
4月26日	TOHOシネマズ福津	10	福岡県福津市	TOHOシネマズ㈱	オープン
8月31日	TOHOシネマズトリアス山	△14	福岡県糟屋郡	TOHOシネマズ㈱	閉館
8月31日	米子駅前SATY東宝	△3	米子市	関西共栄興行㈱	閉館

映像事業のうち映像ソフト事業は、当社において表3他の提供を行いました。出版・商品事業は、劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて「名探偵コナン 11人目のストライカー」「テルマエ・ロマエ」「BRAVE HEARTS 海猿」「おおかみこどもの雨と雪」をはじめとする当社配給作品が、洋画では「メン・イン・ブラック3」「アメイジング・スパイダーマン」「アベンジャーズ」等が順調に稼働いたしました。映像ソフト制作事業は、TVアニメ「ZETMAN」「坂道のアポロン」「夏雪ランデブー」を製作し、それぞれ放送を開始いたしました。またODS事業として「映画 紙兎ロペ つか、夏休みラスイチってマジっすか!?!」「映画ジュエルペット スウィーツダンスプリンセス/おねがいマイメロディ友&愛」「UVERworld DOCUMENTARY THE SONG」をはじめ9作品を提供いたしました。



■ 「テルマエ・ロマエ」
©2012 「テルマエ・ロマエ」製作委員会



■ 「宇宙兄弟」
©2012 「宇宙兄弟」製作委員会



■ 「あなたへ」
©「あなたへ」製作委員会



■ 「メン・イン・ブラック3」
©2012 Columbia Pictures Industries, Inc. All rights reserved.

表3. 当社において当第2四半期連結累計期間中に提供した主なビデオ作品

作品・商品名	レンタル用 DVD/Blu-ray (リリース日)	販売用 DVD/Blu-ray (発売日)
モテキ	3月9日	3月23日
監督失格	4月13日	3月23日
DOCUMENTARY of AKB48 Show must go on 少女たちは傷つきながら、夢を見る	5月11日	4月20日
カイジ2 人生奪回ゲーム	4月25日	—
ステキな金縛り	5月11日	5月25日
源氏物語 千年の謎	6月15日	6月22日
フレンズ もののけ島のナキ	6月15日	6月29日
POV ～呪われたフィルム～	6月15日	6月29日
ZETMAN	7月20日	6月22日
ALWAYS 三丁目の夕日'64	7月20日	—
麒麟の翼 ～劇場版・新参者～	7月27日	7月27日
坂道のアポロン	8月3日	7月27日
映画ドラえもん のび太と奇跡の島 ～アニマルアドベンチャー～	8月3日	—
ロボジー	8月3日	8月3日
逆転裁判	8月22日	—
日本列島 いきものたちの物語	8月22日	8月22日
高倉健 Blu-ray COLLECTION BOX	—	8月22日

また、(株)東宝映像美術等各社において、各種イベント工事等の受注の確保に力を入れましたが、映像事業収入は116億3千5百万円（前年同四半期比11.1％減）となりました。

以上の結果、映画事業収入は695億5百万円（前年同四半期比15.6％増）となりました。

■ 演劇事業

演劇事業では、帝国劇場におきまして、2月から引き続き3、4月の「Endless SHOCK」が全席完売となり、博多座公演からの4か月連続公演を大成功のうちに終えました。5、6月は「エリザベート」が全席売切れ、7月の「ルドルフ ザ・ラスト・キス」を新演出版で上演、8月「ラ・マンチャの男」は松本幸四郎が日本初演から主演を務めて1,200回という記念すべき公演を迎えることができました。シアタークリエにおきましては3月公演「幻蝶」が新鮮な作品で大入りとなり、4月の「道化の瞳」、5月の「ジャニーズ銀座 Youの前にはMeがいる！」も完売の盛況となりました。6月は「飛び加藤～幻惑使いの不惑の忍者～」、7月は藤山直美と高畑淳子の「ええから加減」が舞台成果も高く連日満員となり、8月の「songs for a new world」「CLUB SEVEN 8th stage！」も満席となりました。他劇場ではめぐるパーシモンホールや青山劇場で公演を行った新演出版の「ミス・サイゴン」が大盛況となりました。また、社外公演として、「細雪」「ラ・マンチャの男」「エリザベート」などが全国

巡演を展開し、部門収益に寄与いたしました。一方、東宝芸能(株)では企業の広告費縮減の傾向が続き、CM需要が伸び悩むなか、主要俳優がTV番組や舞台で着実に稼働を伸ばしました。

この結果、演劇事業収入は74億2千6百万円（前年同四半期比29.9％増）となりました。

■ 不動産事業（不動産賃貸事業、道路事業、不動産保守・管理事業）

不動産賃貸事業では、当社の不動産経営部門において、再開発中の「新宿東宝ビル」については既存建物の解体工事が完了し、7月に新築工事に着手いたしました。また同じく再開発中の「広島東宝ビル」についても5月に新築工事に着手いたしました。東宝スタジオのステージレンタルでは、自社配給作品を中心に「プラチナデータ」「少年H」「永遠の0」「謎解きはディナーの後で」などの映画の他、TVも「負けて、勝つ～戦後を創った男・吉田茂～」など、合計18作品の撮影が行われました。CMも76本を誘致し、好稼働いたしました。東宝不動産(株)では、ビル諸設備等の効果的な改修・改善、テナントへのきめ細かな対応を図るとともに、新規テナントの確保など積極的な営業活動を推進いたしました。また、渋谷東宝ビル別館跡地に近隣地権者との一体開発により建築を進めておりました「渋谷ヒ

カリエ」が本年4月に竣工し稼働いたしました。さらに、全国各地で不動産賃貸事業に関わる連結各子会社も営業努力を続けた結果、不動産賃貸事業収入は147億4千2百万円（前年同四半期比3.6％増）となりました。

道路事業では、引き続き公共事業費が抑制傾向にあるため、依然として厳しい事業環境のなか、スバル興業(株)とその連結子会社が、道路の維持・清掃や補修工事の受注確保に努めましたが、道路事業収入は87億4千7百万円（前年同四半期比1.9％減）となりました。

不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)、(株)東宝サービスセンターにおいて、顧客企業のコスト削減傾向が強まるなか、新規事業へ取組むなど努力を重ねましたが、不動産保守・管理事業収入は45億4千5百万円（前年同四半期比2.3％減）となりました。

以上の結果、不動産事業収入は280億3千5百万円（前年同四半期比0.8％増）となりました。

■ その他事業

娯楽事業及び物販・飲食事業は、東宝共栄企業(株)の「東宝調布スポーツパーク」、(株)東宝エンタープライズの「東宝ダンスホール」において、猛暑の影響等で入場人員が伸び悩み、その他事業収入は5億2千7百万円（前年同四半期比12.2％減）となりました。



■ 「DOCUMENTARY of AKB48 Show must go on 少女たちは傷つきながら、夢を見る スペシャル・エディション（2枚組）」
¥5,040（税込）発売中
発売元：2012「DOCUMENTARY of AKB48」製作委員会 販売元：東宝
©2012「DOCUMENTARY of AKB48」製作委員会



■ 「坂道のアポロン 第1巻 【初回限定生産版】<Blu-ray>」
¥7,035（税込）発売中
発売元：東宝／フジテレビ 販売元：東宝



■ 「高倉健 Blu-ray COLLECTION BOX（5枚組）」
¥22,050（税込）発売中
発売・販売元：東宝



■ 帝国劇場「エリザベート」



■ シアタークリエ「ええから加減」

通期の見通し

我が国経済は、個人の消費マインドには徐々に持ち直しの傾向が見られますが、不安定な欧州経済の影響、消費税増税などの懸念材料により、依然厳しい見通しが続いております。

映画界におきましては、全国のスクリーン数が飽和状態に近づく一方、設備のデジタル化の波が押し寄せ業界環境が激変するなか、デジタル時代に対応したコンテンツ制作や、顧客満足の向上に向けたサービスに努めてまいります。

そのようななか、当社グループの通期における業績見通しは、営業収入1,930億円（前期比6.4%増）、営業利益240億円（前期比42.7%増）、経常利益258億円（前期比48.5%増）、当期純利益は130億円（前期比32.0%増）をそれぞれ予想いたしております。

以下各事業部門別の見通し（8月末現在）をご説明申し上げます。

映画事業（映画営業事業、映画興行事業、映像事業）

映画営業事業のうち製作部門では、表4の①に記載の作品を共同製作する他、映画企画部門において、劇場用映画「プラチナデータ」「奇跡のリンゴ」「県庁お

もてなし課」を制作、また単発ドラマ「森村誠一の棟居刑事 死海の伏流」等テレビドラマの制作にも取り組んでまいります。また配給部門では、当社において表4記載の作品を提供する予定をいたしております。また、東宝東和(株)において「ロラックスおじさんの秘密の種」「レ・ミゼラブル」等の配給を予定しております。これらにより、映画営業事業収入は440億円(前期比27.8%増)を見込んでおります。

表4. 当下半年提供予定映画作品	
① 共同製作・配給作品	
● ツナグ	● 終の信託
● のぼうの城	● 悪の教典
● 任侠ヘルパー	● 綱引いちゃった！
● 劇場版イナズマイレブンGO vs ダンボール戦機W	● 今日、恋をはじめます
● 映画 妖怪人間ベム	● 青の祓魔師 劇場版
● 劇場版HUNTER×HUNTER ～緋色の幻影～	● ストロベリーナイト
● 脳男	
② ①以外の当社配給作品	
● 踊る大捜査線 THE FINAL 新たなる希望	

映画興行事業では、TOHOシネマズ(株)を中心にグループ各興行会社において、前記配給作品に加え、「バイオハザードV リトリビューション」をはじめ、「エ

ヴァンゲリオン新劇場版：Q」「007 スカイフォール」等の大作・話題作を上映する予定です。これらにより、映画興行事業収入は566億円（前期比4.7%増）を見込んでおります。引き続きお客様へのサービス強化に努力するとともに、映写室の無人化と自動券売機の安定稼働に努め運営コストの低減を図ります。

映像事業のうち映像ソフト事業は、レンタル及びセル用作品として「僕等がいた 前後篇」「テルマエ・ロマエ」「宇宙兄弟」「映画 紙兎ロペ つか、夏休みラスイチってマジっすか!?!」「少年は残酷な弓を射る」等、バラエティに富んだ作品群を提供いたします。出版・商品事業は「踊る大捜査線 THE FINAL 新たなる希望」「悪の教典」「任侠ヘルパー」「映画 妖怪人間ベム」等のパンフレット、キャラクターグッズに加えて「東宝カレンダー 2013年版」も提供していきます。またODS事業のラインナップを拡充するとともに、商品化、番組販売ビジネスに注力し、製作出資配分を高めてまいります。また、(株)東宝映像美術等各社で、引き続きコスト削減に努めながら、イベント工事、番組制作等の受注を図ってまいります。映像事業収入は224億円（前期比4.8%減）の見込みです。

以上の結果、映画事業収入は1,230億円（前期比9.8%増）を見込んでおります。

演劇事業

演劇事業では、帝劇は9月に亀梨和也主演の「DREAM BOYS」、10月は松任谷由実と帝劇の新世紀のコラボレーション「8月31日 ～夏休み最後の日～」、11、12月は「JOHNNYS' World」、2月は堂本光一主演「Endless SHOCK」を上演いたします。シアタークリエでは9月に井上芳雄と坂本真綾の待望の初顔合わせで贈る「ダディ・ロング・レッグズ ～足ながおじさんより～」と音楽朗読劇「CROSS ROAD」、10月はロマンチック・ラブミュージカル「デュエット」と「DRAMATICA/ROMANTICA V」、11月はオリジナル演出家マイケル・グライフの新演出で贈る「RENT」、12月は「Chanson de 越路吹雪 ラストダンス」、1月は待望の再演「ピアフ」を上演いたします。日生劇場では1月鹿賀丈史主演の「シラノ」、青山劇場で「ミス・サイゴン」等を上演し、社外公演では、「エリザベート」「招かれざる客」「ミス・サイゴン」の東宝演劇公演を積極的に全国へと展開いたします。

これらの結果、演劇事業収入は137億円（前期比7.4%増）を見込んでおります。



● 「悪の教典」
©2012「悪の教典」製作委員会



● 「劇場版イナズマイレブンGO vs
ダンボール戦機W」
©2012映画「今日、恋をはじめます」製作委員会
©水波風南／小学館



● 「今日、恋をはじめます」
©2012映画「今日、恋をはじめます」製作委員会
©水波風南／小学館



● 「007 スカイフォール」
skyfall©2012 Danjaq, LLC, United Artists Corporation, Columbia Pictures Industries, Inc. All rights reserved.



● 「映画 紙兎ロペ
つか、夏休みラスイチってマジっすか!?!通常版」
11月23日DVD発売 ￥3,990 (税込)
発売元：KITERETSU 販売元：東宝

■ 不動産事業 (不動産賃貸事業、道路事業、不動産保守・管理事業)

不動産賃貸事業では、当社の不動産経営部門において、現在再開発中の「新宿東宝ビル」及び「広島東宝ビル」の工事を鋭意進捗させます。また、長期的視野に立った設備改修や再開発等の企画立案を通し、全国に所有する不動産の有効活用に努めます。東宝スタジオでは、長引く景気低迷の影響で映画・CMともに製作費が削減傾向にあり、製作現場を取り巻く環境は依然厳しく先行き不透明ではありますが、引続き当社配給作品を中心に積極的な営業活動を展開し製作現場の期待に応えてまいります。また東宝不動産(株)においては、テナントに対するきめ細かな対応と意思の疎通に心掛けるなど積極的な営業活動を推進するとともに、収益性・将来性に優れた新規賃貸物件の取得・開発に努め、事業規模の拡大と収益の確保を目指してまいります。さらに、全国各地で不動産賃貸事業に関わる連結各子会社においても営業努力を続けてまいります。これらの結果、不動産賃貸事業収入は291億円（前期比0.8%増）を見込んでおります。

道路事業では、スバル興業(株)とその連結子会社において、公共事業の縮減、同業他社間の価格競争の激化

等、引続き厳しい経営環境が続くものと予想されます。この結果、道路事業収入は170億円（前期比1.1%減）を見込んでおります。

不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)及び(株)東宝サービスセンターにおいて、主力のビルメンテナンス業での受注の拡大、コスト削減を図り、顧客満足度を高める努力を続けてまいりますが、不動産保守・管理事業収入は93億円（前期比0.5%減）の見込みです。

以上の結果、不動産事業収入は554億円（前期比0.0%減）を見込んでおります。

■ その他事業

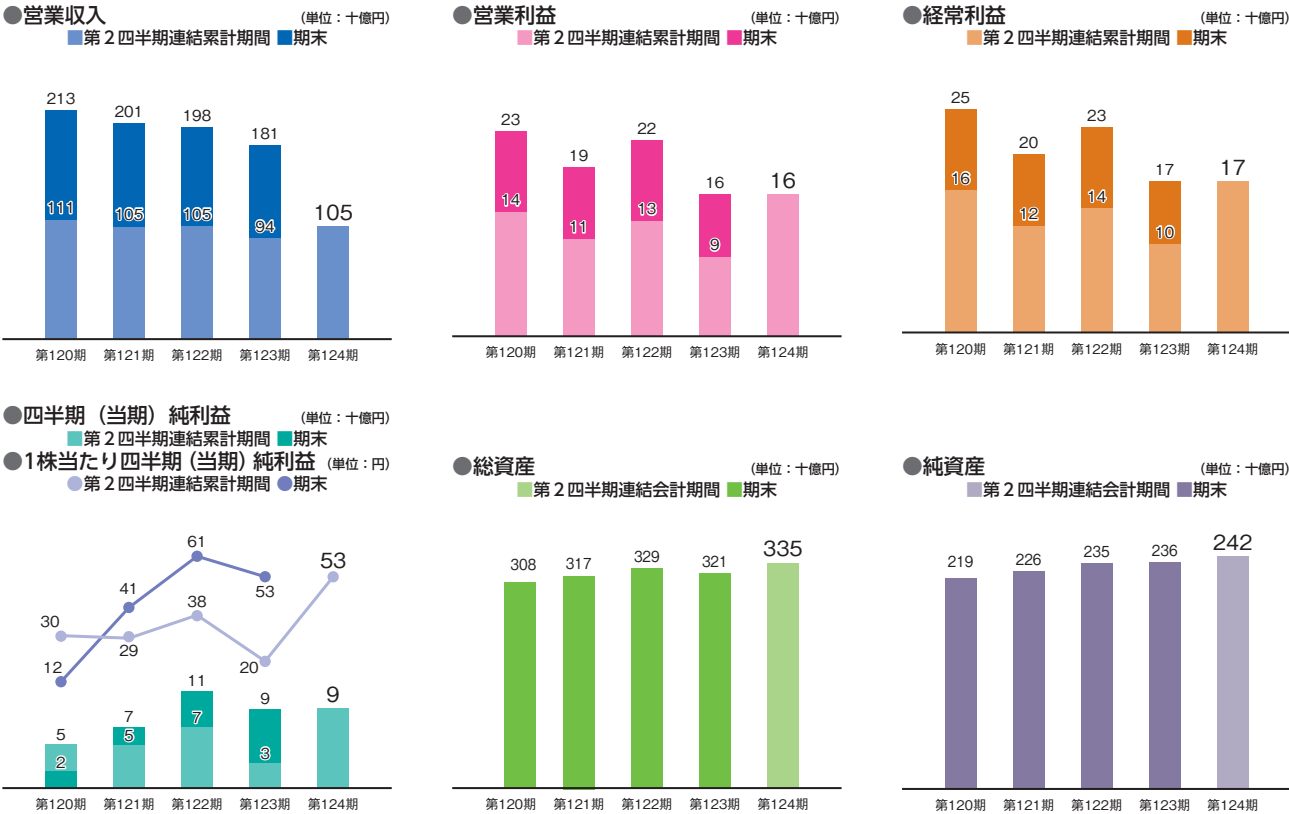
娯楽事業及び物販・飲食事業は、東宝共栄企業(株)の「東宝調布スポーツパーク」や(株)東宝エンタープライズの「東宝ダンスホール」において新規顧客の獲得に努めますが、その他事業収入は9億円（前期比24.9%減）の見込みです。

(注：本報告書中の記載金額及び株式数は、表示単位未満を切捨てております。)



■ 「テルマエ・ロマエ豪華盤<Blu-ray> (特典BD付 2枚組)」
11月23日発売 ¥7,350 (税込)
発売元：フジテレビ 販売元：東宝

Financial Highlight
連結財務ハイライト



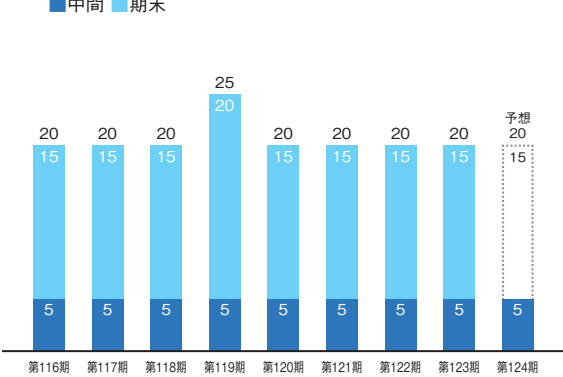
中間配当金について

中間配当金につきましては、既にご案内のとおり、1株5円と決定させていただきました。
下半期も引続き一層の経営の充実をはかり、業績向上を期すべく努力いたす所存でございます。なにとぞ益々のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。
中間配当金のお支払いにつきましては、特にご指定のない方は同封の中間配当金領収証により、払渡期間（平成24年11月7日～平成24年12月7日）中に、ゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局にてお受け取りください。（同領収証を、お取引の貯金口座のあるゆうちょ銀行または預金口座のあるその他銀行窓口にお持ちいただくことにより、その口座へ入金することもできます。）
また、口座振込をご指定の方は同封の「中間配当金計算書」及び「配当金振込先のご確認について」によりご確認ください。

通期の配当予想について

上半期の業績に通期業績予想を加味し、期末の配当金は、普通配当5円に加え、特別配当10円の計15円、中間配当金と合わせまして年間配当計20円を予想いたしております。

1株当たり配当金の推移



四半期連結貸借対照表

科目	当第2四半期連結会計期間	前連結会計年度
	平成24年8月31日	平成24年2月29日
資産の部		
流動資産	100,951	81,455
現金及び預金	12,127	10,676
1 受取手形及び売掛金	17,667	13,674
有価証券	5,368	6,195
たな卸資産	4,901	4,010
現先短期貸付金	41,494	25,493
その他	19,641	21,612
貸倒引当金	△250	△207
固定資産	234,915	239,545
有形固定資産	156,491	157,982
建物及び構築物（純額）	93,742	94,222
土地	55,632	55,732
建設仮勘定	259	1,403
その他（純額）	6,857	6,624
無形固定資産	7,478	7,835
のれん	4,949	5,185
その他	2,528	2,650
投資その他の資産	70,945	73,726
投資有価証券	48,902	50,650
その他	23,100	24,253
貸倒引当金	△1,057	△1,177
資産合計	335,866	321,000

1 受取手形及び売掛金

前期末に対し3,993百万円増加しておりますが、主に夏休みに配給した映画作品の売上の増加によるものです。

2 買掛金

前期末に対し6,046百万円増加しておりますが、主に夏休みに配給した映画作品の配分金の増加によるものです。

(単位：百万円)

科目	当第2四半期連結会計期間	前連結会計年度
	平成24年8月31日	平成24年2月29日
負債の部		
流動負債	51,347	31,243
2 買掛金	17,611	11,565
1年内償還予定の社債	10,000	—
短期借入金	116	134
1年内返済予定の長期借入金	25	550
未払法人税等	5,456	1,432
賞与引当金	852	837
固定資産撤去損失引当金	208	1,354
その他の引当金	21	19
資産除去債務	415	839
その他	16,640	14,509
固定負債	42,178	53,147
社債	—	10,000
長期借入金	100	75
退職給付引当金	3,109	3,000
役員退職慰労引当金	210	311
その他の引当金	774	1,435
資産除去債務	5,598	5,722
その他	32,383	32,602
負債合計	93,525	84,390
純資産の部		
株主資本	215,053	208,207
資本金	10,355	10,355
資本剰余金	13,837	13,837
利益剰余金	196,286	189,218
自己株式	△5,425	△5,204
その他の包括利益累計額	5,714	7,105
その他有価証券評価差額金	4,716	6,105
土地再評価差額金	1,003	1,003
為替換算調整勘定	△6	△3
少数株主持分	21,572	21,296
純資産合計	242,340	236,609
負債純資産合計	335,866	321,000

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期連結累計期間	前第2四半期連結累計期間
	平成24年3月1日から平成24年8月31日まで	平成23年3月1日から平成23年8月31日まで
営業収入	105,495	94,244
営業原価	61,499	58,536
売上総利益	43,995	35,707
販売費及び一般管理費	27,286	25,928
人件費	8,328	8,598
広告宣伝費	5,116	3,366
賞与引当金繰入額	641	672
役員退職慰労引当金繰入額	17	21
借地借家料	3,896	3,729
その他	9,285	9,540
営業利益	16,708	9,779
営業外収益	1,200	642
受取利息	45	44
受取配当金	783	456
持分法による投資利益	248	46
その他	123	95
営業外費用	123	148
支払利息	79	85
為替差損	26	42
その他	18	20
経常利益	17,785	10,272
特別利益	95	599
投資有価証券売却益	24	489
保険解約返戻金	33	15
その他	37	94
特別損失	511	4,117
減損損失	432	96
固定資産除却損	—	16
投資有価証券評価損	64	164
立退補償金	—	60
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	3,042
災害による損失	—	568
その他	15	168
税金等調整前四半期純利益	17,370	6,755
法人税、住民税及び事業税	5,907	3,234
法人税等調整額	1,195	△405
法人税等合計	7,103	2,828
少数株主損益調整前四半期純利益	10,266	3,926
少数株主利益	414	173
四半期純利益	9,852	3,753

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期連結累計期間	前第2四半期連結累計期間
	平成24年3月1日から平成24年8月31日まで	平成23年3月1日から平成23年8月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,821	11,425
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,702	△5,155
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,868	△3,943
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8	△42
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	18,241	2,284
現金及び現金同等物の期首残高	38,917	37,220
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	—	0
現金及び現金同等物の四半期末残高	57,159	39,504

TOHO Group

東宝グループ概要

映画製作・配給

(株)東宝映画……… 映画の製作
東宝東和(株)……… 洋画の輸入・配給
(株)東京現像所……… フィルムの現像、CG・デジタル合成などの処理

映画興行

TOHOシネマズ(株)・・ TOHOシネマズ日劇・TOHOシネマズ六本木ヒルズ・TOHOシネマズ梅田などの映画館経営
北海道東宝(株)……… 恵庭東宝シネマ8の経営
関西共栄興行(株)……… 松江東宝5の経営

映像の製作・販売

東宝ミュージック(株)・・ 映画・ミュージカルなどの音楽製作、音楽原盤・著作権の管理
(株)東宝映像美術……… 映画・テレビ・CMなどの美術製作、テーマパーク・イベントの企画・デザイン・施工
(株)東宝コスチューム・・ 映画・テレビ・イベント・テーマパークなどの衣裳の製作・レンタル
東宝舞台(株)……… 演劇・テレビなどの舞台美術・小道具・衣裳の製作
東宝アド(株)……… テレビ・新聞・雑誌など広告媒体の取扱代理業、映像・ポスターなど各種宣伝広告物の企画・デザイン・制作
(株)東宝ステラ……… 東宝作品のビデオ・パンフレット・キャラクター商品などの流通・販売、映画原版・プリントの管理

演劇事業

東宝芸能(株)……… 映画・演劇・テレビなどへの俳優の斡旋、演劇の企画・製作、イベントの企画・製作
(株)東宝エージェンシー・・ 演劇公演の団体入場券の斡旋・販売
(株)コマ・スタジアム・・ 演劇の制作、ビルの賃貸

不動産の賃貸等

国際放映(株)……… スタジオのレンタル、テレビ番組の企画・制作
三和興行(株)……… 新宿三丁目東宝ビル・新宿文化ビルの賃貸
東宝不動産(株)……… 東宝ツインタワービル・帝劇ビルなど不動産の賃貸、劇場内売店の経営、飲食店の経営、保険代理業、介護事業
萬活土地起業(株)……… 長崎・熊本・鹿児島におけるビルの賃貸

道路事業

スパル興業(株)……… 道路の維持清掃及び補修工事、飲食店の経営、有楽町スパル座の経営

不動産の保守・管理

(株)東宝サービスセンター・・ ビルの管理・清掃・警備（東京・仙台・北海道など）
東宝ビル管理(株)……… ビルの管理・清掃・警備（近畿・中部・九州など）

飲食・娯楽事業

東宝共栄企業(株)……… 東宝調布スポーツパークの経営
(株)東宝エンタープライズ・・ 東宝ダンスホールの経営

持分法適用会社

オーエス(株)……… OSシネマズミント神戸などの映画館経営、OSビルなど不動産の賃貸、梅田OSホテルの経営
(株)東京楽天地……… 錦糸町楽天地ビルなど不動産の賃貸、TOHOシネマズ錦糸町など映画館、温浴施設などの経営

(上記を含めて合計 連結子会社37社、持分法適用会社4社)

Investor Information

株式情報（平成24年8月31日現在）

株式の状況

発行可能株式総数 400,000,000株
発行済株式の総数 188,990,633株
(自己株式3,492,009株を含む)
株主数 30,429名
(前期末比122名減)

大株主（上位10名）

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	持株比率 (%)
阪急阪神ホールディングス株式会社	22,807	12.24
阪急不動産株式会社	15,150	8.13
エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社	13,664	7.33
株式会社フジ・メディア・ホールディングス	4,940	2.65
株式会社TBSテレビ	4,521	2.42
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社（信託口）	4,035	2.17
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社（信託口）	3,935	2.12
株式会社電通	3,779	2.03
株式会社丸井グループ	3,223	1.73
ステートストリートバンク アンドトラストカンパニー	3,121	1.68

(注) 持株比率は、自己株式3,492,009株を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

金融商品取引業者
1,066,880株 (0.58%)

外国法人等
23,266,989株 (12.54%)

金融機関
27,333,000株 (14.73%)

個人その他
48,224,937株 (26.00%)

その他の国内法人
85,606,818株 (46.15%)

Corporate Data

会社概要

会社概要（平成24年8月31日現在）

会社名 東宝株式会社
設立 昭和7年8月12日
資本金 10,355,847,788円
従業員数 373名
但し、嘱託14名、出向受入者30名を含み、出向者114名を含みません。
本社 東京都千代田区有楽町一丁目2番2号
支社 関西（大阪）
スタジオ 東京 世田谷（成城）
演劇直営劇場 本社直轄 2劇場(帝国劇場、シアタークリエ)
その他の営業所 (主な賃貸ビル)
有楽町センタービル（通称有楽町マリオン）
東宝日比谷ビル（通称日比谷シャンテ）
東京宝塚ビル
東宝シアタークリエビル
HEPナビオ
東宝南街ビル

主な事業内容
映画 映画の製作、売買及び賃貸借、テレビ放送番組等の制作及び販売、映画のパンフレット及び映像ソフトの製作並びに販売、商品化権に関する事業、その他
演劇 演劇の企画、製作及び興行
不動産経営 土地・建物の賃貸借、その他

役員（平成24年10月1日現在）

代表取締役
取締役社長 島谷 能成 映像本部長
内部監査室直轄

代表取締役
取締役副社長 千田 諭 映像本部統括兼同映画営業、同国際各担当

専務取締役 中川 敬 不動産経営、スタジオ各担当

専務取締役 増田 憲義 演劇担当

専務取締役 高橋 昌治 人事、総務各担当
兼経営企画管掌

常務取締役 浦井 敏之 経理財務、情報システム各担当
兼特定取締役

取締役 角 和夫 阪急阪神ホールディングス株式会社
代表取締役社長

取締役 石塚 泰 人事担当補佐

取締役 太古 伸幸 経営企画担当兼経営企画部長

取締役 新坂 純一 映像本部宣伝、同映像事業各担当

取締役 山下 誠 不動産経営担当補佐兼
スタジオ経営担当補佐

取締役 市川 南 映像本部映画調整、
同映画企画各担当兼同映画調整部長

取締役 瀬田 一彦 TOHOシネマズ株式会社
代表取締役社長

常勤監査役 村上 主税 監査役会議長兼特定監査役

常勤監査役 沖本 友保

監査役 大西昭一郎 弁護士

監査役 小林 節 株式会社パレスホテル
代表取締役社長

13

14

■株主メモ

事業年度	3月1日～翌年2月末日
定時株主総会	5月中
配当金受領株主確定日	期末配当金 2月末日 中間配当金 8月31日
基準日	定時株主総会 2月末日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して 臨時に基準日を定める。
株主名簿管理人 特別口座管理機関 同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料) ※特別口座に関する変更届等用紙のご請求は 電話 0120-244-479 (通話料無料) インターネットホームページ http://www.tr.mufig.jp/daikou/ http://www.toho.co.jp/toho_ir/
公告掲載URL	ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法によって公告いたします。

●表紙のご紹介

本年4月26日にグランドオープンいたしましたTOHOシネマズ株の一番新しいサイト「TOHOシネマズ福津」でございます。
ご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

■株主優待

株主カード及び株主映画ご招待券交付基準

ご所有株数	株主カード貸与枚数		株主映画ご招待券発行 シート数 (半年につき) (※)
	ご本人カード	ファミリーカード	
1,000～1,999株	1枚	0枚	1シート
2,000～2,999株			2シート
3,000～4,999株			3シート
5,000～9,999株		1枚	6シート
10,000～19,999株		2枚	10シート
20,000～29,999株	3枚		15シート
30,000～49,999株			20シート
50,000～99,999株			25シート
100,000株以上			30シート

- 株主映画ご招待は、株主カードと株主映画ご招待券を映画館チケット売場等でご提示いただき、双方に記載された優待番号が一致したとき、ご利用いただけます。
- 株主カードの発行は、原則として初回のみ、5月下旬または11月中旬となります。
- 1シートは、**指定2ヶ月間通用券**×6枚となります。
2月末日現在の株主に5月下旬に発行：**6・7月、8・9月、10・11月通用**各2枚。
8月末日現在の株主に11月中旬に発行：**12・1月、2・3月、4・5月通用**各2枚。

株主映画ご優待券交付基準 (800円で映画をご覧ください)

100～499株	半年 2枚	500～999株	半年 8枚
----------	-------	----------	-------

2月末日現在の株主に6月から11月まで半年間通用の券を5月下旬に発行。
8月末日現在の株主に12月から翌年5月まで半年間通用の券を11月中旬に発行。

株主優待制度についての詳細は、当社ホームページ「会社情報」
「株主優待」をご覧ください。

東宝株式会社

〒100-8415

東京都千代田区有楽町一丁目2番2号

総務部 電話 (03) 3591-1214

<http://www.toho.co.jp>



適切に管理された森林資源を用紙の材料にしています。



VOC (揮発性有機化合物)の発生が少ない、ベジタブルインクを使用しています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。